

広島県緑化センター 6月の開花マップ



6月 開花マップ

植物名	科 名	属 名	別名	植栽場所	開花 確認日	解説	備考
アジサイ	ユキノシタ	アジサイ		センター池	6/3	アジサイはガクアジサイの花序全体が装飾花に変化したもので、古くから栽培されている。花は6月頃、枝先に散房花序を出し、直径3～6cmの装飾花を球状につける。果実は結実しない。	
イソノキ	クロウメモドキ	クロウメモドキ		中央展望台	6/2	山地のやや湿った所に自生し、高さ2～3m。6～7月、枝の上部の葉腋に集散花序を出し、黄緑色の小さな花をつける。花は直径5mmほど。花弁と萼片はそれぞれ5個。果実は直径約6mmの倒卵状球形で、赤色から紫黒色に熟す。	
イヌツゲ	モチノキ	モチノキ		樹木探勝園	6/10	山地の岩場や林縁などに生育し、高さ5mになる。よく枝分かれして、枝葉が密生する。花は雌雄別株で6～7月に小さな花をつける。果実は5～6mmの球果で10～11月に黒色に熟す。	
イボタノキ	モクセイ	イボタノキ		ファミリー広場入口	5/28	林縁に生育し、高さ2～4mになる。暖地では落葉しないこともある。花は5～6月に枝先に長さ2～4cmの総状花序をだし、白い小さな花をつける。イボタノキの仲間の樹皮にはイボタロウムシがつき、イボタロウが取れる。	
ウツギ	アジサイ	ウツギ	ウノハナ	各所	5/16	日当たりのよい山野の林縁に生育し、高さ1～3mになる。花は5～7月に枝先に円錐花序を出し、白色の花を多数下向きにつける。幹の中心が空になっていることから空木(うつぎ)と名付けられた。	
ウメモドキ	モチノキ	モチノキ		さくら通り	6/2	湿地や湿った落葉広葉樹林内に生育し、高さは2～3mになる。花は雌雄異株で6月頃淡紫色の花が咲く。果実は、9～10月に赤色に熟し、落葉後も落ちずに残る。名前は葉がウメの葉に似ていることによる。	
オオバボダイジュ	アオイ	シナノキ		苗畑		葉は互生し、先は尾状に尖り、基部はゆがんだハート型。裏面は星状毛が密生し、脈腋には毛叢がある。花は6～7月に淡黄色の花を10個以上つけ、花柄には総苞葉をつける。	
オオヤエクチナシ	アカネ	クチナシ		見本園	6/25	クチナシの八重咲きで、花が大きい。葉は対生か3輪生し、全縁。革質で両面とも無毛。花は6～7月に枝先に芳香のある白い大きな花をつける。	
カキノキ	カキノキ	カキノキ	カキ	ファミリー広場	5/24	中国原産と言われ、高さ10m程度になる。成木の樹皮は縦に裂けてはがれる。花は雌雄異株で、5～6月に淡黄色の花を付ける。果実は液果で10～11月に黄赤色に熟す。	
カナメモチ	バラ	カナメモチ	アカメモチ	第3駐車場、園内	5/27	山地の斜面に多く、乾燥した尾根筋や沿海地にも生育し、高さ5～10mになる。若葉は紅色を帯びる。花は5～6月、直径10cmほどの複散房花序に白い小さな花を多数つける。	
キササゲ	ノウゼンカズラ	キササゲ	アズサ	薬草園	6/18	中国原産で川岸などの光のよくあたる場所に野生化し、高さ5～15mになる。花は6～7月に枝先に長さ10～25cmの円錐花序をだし、黄白色の花を多数つける。果実は利尿剤に使われ、樹皮や根は解熱剤や駆虫剤に利用される。	
キハダ	ミカン	キハダ	ヒロハノキハダ	薬草園	5/21	枝先に円錐花序を出し、黄緑色の小さな花を多数つける。樹皮のコルク層を取り除いた内樹皮はベルベリンを含み苦味がある。これを黄檗といい薬用や染料に用いる。	
キミノタマミズキ	モチノキ	モチノキ		西ゲート外林道向		タマミズキの変種で果実が黄色。	
キョウチクトウ	キョウチクトウ	キョウチクトウ		センター池下	6/14	インド原産で江戸時代中期に渡来したと言われる。花は6～9月に枝先に集散花序をだし、次々に花を開く。花色は、ピンク・赤・白など、八重咲き品種もある。果実は10～14cmの線形で、直立して付き、熟すと縦に裂けて種子を出す。	
キンシバイ	オトギリソウ	オトギリソウ		見本園	6/18	中国南部原産で庭木・公園樹として植栽され、花は切花にされる。高さ1mほど。花は6～7月に枝先に直径3～4cmの黄色の花をつける。キンシバイは雄しべが花弁より短いが、ビョウヤナギは雄しべが花弁より長い。	
クスノキ	クスノキ	ニッケイ	クス	多目的広場	5/21	古くから神社などに植えられ、天然記念物に指定された巨樹や老樹が多い。広島市の木。花は5～6月に新葉のわきから円錐花序をだし、小さな花をまばらにつける。果実は10～11月に黒紫色に熟す。樹皮と葉に樟腦の香りがある。	

6月 開花マップ

植物名	科 名	属 名	別名	植栽場所	開花 確認日	解説	備考
クチナシ	アカネ	クチナシ		見本園	6/25	林縁に生育し、高さ1～2mになる。枝は、はじめ緑色、のちに灰緑色になる。花は6～7月に枝先に芳香のある白色の花を1個ずつつける。花の先は5～7裂する。八重咲きのものもあり、葉も花ひとまわり小さいものはコクチナシ。	
クマノミズキ	ミズキ	サンシュユ		第2苗畑、東山作業道	6/12	丘陵～山地の林内に生育し、高さ8～12m。樹形はミズキ科特有の枝の張り方で放射状に出て斜上する。花は6～7月に枝先に葉より高く散房花序を出し、小さな黄白色の花を密につける。果実は7～10月に紫黒色に熟す。	
クロガネモチ	モチノキ	モチノキ		各所	6/3	山野の常緑樹林内に生育し、高さ10～20mになる。花は雌雄別株で6月頃白色または淡紫色の花をつける。果実は球形で11～12月に赤色に熟す。樹皮から鳥もちがとれる。	
ケンポナン	クロウメモドキ	ケンポナン		シャクナゲロード	6/25	葉は互生し、2枚ずつ付く。左右不对称。花は6～7月に緑白色の小さな花をつける。果実は紫褐色に熟す。花序の軸は花のあと膨らんで、果期には食べられる。材は器具等に利用される。	
コアジサイ	ユキノシタ	アジサイ	シバアジサイ	県木の森入口	5/21	山地や丘陵の明るい林内や林縁に生育する。花は6～7月に咲き、枝先に直径5cmほどの散房花序をだす。装飾花はなく、花はすべて両性花。果期は9～10月に熟す。	
コウホネ	スイレン	コウホネ		水生植物園	5/30	浅い池や沼などに生える多年草の水草。長く直立した円柱形の花柄の先に、黄色の花を1個上向きに開く。和名は河骨で、根茎が白骨のように見えたことによる。鎮静、利尿、止血などの薬効あり。	
コクチナシ	アカネ	クチナシ	ヒメクチナシ	見本園	6/30	クチナシの変種。高さ30～40cm程度で、地面を這うように育つ。葉は倒披針形で細長く、ほぼ無柄。花は小輪で八重咲き。	
コムラサキ	シソ	ムラサキシキブ	コシキブ	苗畑	6/13	山麓の湿地などに生育し、高さ2m。花は7～8月に葉腋のやや上から集散花序を出し、淡紅紫色の花を10～20個つける。ムラサキシキブとの違いは、葉の鋸歯が上半分にしかないこと、花序の柄が葉腋より上につくことなど。	
ゴンズイ	ミツバウツギ	ゴンズイ	ゴゼノキ	薬草園横法面	5/30	各地の谷川沿いの林内に自生する。5～6月に枝先に円錐花序を出し、淡黄緑白色の花を多数開く。秋、果実が裂けると内面が鮮紅色で美しい。樹皮に白い筋があり、魚のゴンズイの模様に似る。	
サカキ	サカキ	サカキ	マサカキ	ヤマアジサイの道他	6/29	山地に生育し、神社などに植栽される。6～7月に白色の花が1～3個束生し、後に黄色味を帯びる。果実は11～12月に黒紫色に熟す。名前の由来は常緑なのでサカエキ(栄木)、神の静まる地のサカヒ(区域)の木など諸説ある。	
ザクロ	ミソハギ	ザクロ		見本園	6/19	西アジア原産で平安時代に渡来したとされる。6月に朱赤色の花をつける。果実は直径5cmほどの球形で、熟すと不規則に裂開する。果実は生食でき、樹皮は駆除剤などに利用される。	
サツキツツジ	ツツジ	ツツジ	サツキツツジ	各所	5/12	ほとんどが栽培で自生はまれ。葉は互生し、枝先に数個集まってつく。春葉と夏葉があり、越冬するのは夏葉。花は5～7月、枝先に朱赤色の漏斗形の花をつけ、5中裂する。	
サラサウツギ	ユキノシタ	ウツギ		苗畑	5/19	ウツギの重弁の品種。花弁は外側が紅紫色を帯び、内面は白色。古くから栽培されている。	
サンゴジュ	レンプクソウ	ガマズミ		見本園、第2苗畑	6/19	海沿いの谷などに生育し高さ20mになる。花は6月に枝先に5～16cmの円錐花序をだし、白色の花を多数つける。果実は8～10月に赤くなり、完熟すると黒くなる。名前の由来は、赤い果実がたくさん付き珊瑚に見立てたことによる。	
シモツケ	バラ	シモツケ	キシモツケ	苗畑	6/18	岩礫地など日当たりのよいところに生育する。花は5～8月、枝先に半球形の複散房花序をだし、小さな花を多数つける。花弁は広卵形～円形で淡紅色、紅色、濃紅色、まれに白色と変異が多い。果実は9～10月に熟し裂開する。	
シャリンバイ	バラ	シャリンバイ	タチシャリンバイ	管理事務所前法面	5/14	海岸や海岸に近い山地に生育し、高さ1～4mになる。小枝は密生して輪生状にでる。花は5月頃に枝先に円錐花序を出し、直径1～1.5cmの白色の花を多数つける。果実は10～11月に黒紫色に熟す。移植はやや困難。	
シロウメモドキ	モチノキ	モチノキ		さくら通り	6/12	ウメモドキの変種とされ、花も核果も白色のもの。庭木に植えられたり、盆栽などに利用される。	
スイカズラ	スイカズラ	スイカズラ	ニンドウ・キンギンカ	ファミリー広場入口	5/26	山野に生える半常緑つる性木本。花は5～6月、枝先の葉腋に甘い芳香のある花を2個ずつつけ、白色から黄色に変わる。若い葉はそのまま食べたり、乾燥させて忍冬(にんどう)茶にする。和名は花の蜜を吸うと甘いことによる。	
センダン	センダン	センダン	オウチ	車庫前	5/22	海岸近くの日当たりの良いところに生育する。花は5～6月に本年枝の基部の葉腋から10～15cmの集散花序だし、淡紫色の花を多数付ける。果実は10～12月に黄褐色に熟し、葉が落ちたあとも長く枝先に残っていることが多い。	

6月 開花マップ

植物名	科 名	属 名	別名	植栽場所	開花 確認日	解説	備考
ソヨゴ	モチノキ	モチノキ	フクラシバ	各所	5/30	乾いた林内や林縁に生育し、高さ3～7mになる。花は雌雄別株で6～7月に小さな白色の花をつける。果実は直径約8mmの球形で10～11月に赤色に熟す。タンニンを含み褐色の染料として用いられる。	
タイサンボク	モクレン	モクレン	ハクレンボク	各所	5/27	北アメリカ原産で高さ20mになる。花は6月頃に枝先に直径15～25cmの芳香のある白い花を付ける。果実は10～11月に熟し、長さ8～12cmの楕円形で袋果が集まった集合果。	
タチバナモドキ	バラ	トキワサンザシ	ホソバトキワサンザシ	センター池西岸	6/15	花期は5～6月で果実は橙黄色に熟す。日本ではタチバナモドキ・ヒマラヤトキワサンザシ・トキワサンザシなどが植栽されていて、これらを総称してピラカンサと呼ぶことが多い。果実の形や色がタチバナに似ているのでこの名が付けられた。	
タマミズキ	モチノキ	モチノキ		車庫東斜面		葉柄が1.5～2cmと長いのが特徴。雌雄別株で6月頃に緑白色の花をつけ、果実は10～11月に赤く熟す。和名は赤い果実が美しく、ミズキに似ていることによる。	
チュウゴクボダイジュ	アオイ	シナノキ		芝生広場	5/27	八千代湖(土師ダム)にあるチュウゴクボダイジュは中国地方で昭和47年に発見された新種で、県の天然記念物に指定。6月頃、集散花序をだし、淡黄色の花を咲かせる。	
トウネズミモチ	モクセイ	イボタノキ		見本園	7/4	ネズミモチより大木となり葉も花序も大きい。ネズミモチの葉は光にかざしても葉脈は見えないが、本種では明瞭。果実はほぼ球形で径0.8～1cm、紫黒色に熟す。果実をつぶしても指は染まらない。中国原産で明治初期に渡来した。	
トキワサンザシ	バラ	トキワサンザシ		第2苗畑入口	5/22	葉は互生、幅が広く両面とも無毛。花は5～6月、枝先に散房花序をだし、白い花を多数咲かせる。果実は球形で、9～10月に鮮やかな紅色に熟す。	
トベラ	トベラ	トベラ	トビラノキ	見本園	5/28	海岸に生育し、高さ2～3mで大きいものは8mぐらいになる。雌雄異株で花は4～6月に本年枝の先に集散花序を出し、白い花を多数付ける。花は香りがよい。枝や葉、根に臭気がある。緑化センターでは鹿の被害が多い。	
ナツツバキ	ツバキ	ナツツバキ	シヤラノキ	管理事務所前	6/10	樹皮はなめらかで10年ぐらいで古い樹皮が薄片状にはげ落ち、灰白色や赤褐色の大きな斑紋になる。花は6～7月本年枝の葉脈に直径5～6cmの白い花をつける。花弁は5個、ふちは波打ち、細かい鋸歯がまばらにある。	
ナツハゼ	ツツジ	スノキ		中央展望台に通ずる遊歩道沿い	5/22	山地や丘陵に多い。5～6月、本年枝の先に長さ6cmの総状花序を出し、淡黄褐色の花を多数開く。秋に果実をつけ、甘酸っぱく食べられる。名前は「ハゼ」だが、かぶれることはない。	
ナナミノキ	モチノキ	モチノキ	ナナメノキ	苗畑東側法面	6/12	花は雌雄異株、6月頃に開花、当年枝の葉腋に淡紫色の散形花序をつける。果実は直径6mmのほぼ球形で、10月頃に赤く熟す。和名はナガミノキ(長実の木)やナノミ(名の実)がなまったとされる。	
ナンテン	メギ	ナンテン		センター池奥	6/26	庭木として植えられ、高さ3mほどになる。花は5～6月に、枝先に大形の円錐花序を出し、直径6～7mmの白い花を多数つける。果実は直径6～7mmの球形で、10～11月に赤く熟す。	
ネコノチチ	クロウメモドキ	ネコノチチ		薬草園下遊歩道沿い	6/24	花は5～6月、葉腋に直径約3.5mmの黄緑色の花が4～8個つく。果実は長さ8～10mmの長楕円形。黄色から黒色に熟す。和名は果実をネコの乳首に見立ててつけられた。	
ネジキ	ツツジ	ネジキ	カシオシミ	薬草園奥	5/22	日本固有種で山地の乾燥した尾根や斜面に生育し、高さ2～7mになる。生長すると、幹がねじれるのが特徴。花は5～7月に前年枝での葉腋から長さ4～6cmの総状花序を出し、白い花を下向きに多数つける。	
ネズミモチ	モクセイ	イボタノキ	タマツバキ	見本園	6/10	花は6月に新枝の先に円錐花序をだし、白色の小さな花を多数つける。果実は直径5～7mmの楕円形で10～12月に黒紫色に熟す。名前の由来は、実がネズミの糞のようで、葉がモチノキに似ていることによる。	
バイカツツジ	ツツジ	ツツジ		各所	5/19	山地に生育し高さ1～2m。花は両性、6～7月に白色に赤い斑点のある花を1～数個つける。果実は8～10月に熟す。名前は白い小さな花をウメに見立てたもの。	
ハコネウツギ	スイカズラ	タニウツギ		センター池のり面	5/17	沿海地の海岸林に生育し、高さ5mになる落葉低木。花は5～6月に枝先や葉腋に2～3個ずつ付ける。最初は白色でしだいに紅色に変化する。和名は箱根に生育するウツギからだと思われるが、自生している数は少ない。	
ヒメシャラ	ツバキ	ナツツバキ		第2苗畑、第2駐車場	6/7	山地に生育し、高さ15m。樹皮は淡赤褐色でなめらか。花は5月頃に1.5～2cmの白い花を付ける。花弁は5個。果実は9～10月に熟し5裂する。	
ビョウヤナギ	オトギリソウ	オトギリソウ		ミニアスレコース入口他	6/14	中国原産で古くから植栽され、高さ0.5～1.5m。花は6～7月に枝先に直径4～6cmの大きな黄色の花をつける。雄しべは多数あり、約30個ずつ5つの束になっている。雄しべが花弁より長く、キンシバイは雄しべが花弁より短い。	

6月 開花マップ

植物名	科 名	属 名	別名	植栽場所	開花 確認日	解説	備考
ベニカナメモチ	バラ	カナメモチ		林間広場	5/27	カナメモチの実生変異種で、若葉が特に赤い本種を”ベニカナメモチ”と呼ぶ。	
マタタビ	マタタビ	マタタビ		林内	6/1	花は雌雄別株で6～7月に芳香のある白い花をつける。果実の塩漬けを酒の肴にしたり、果実酒に利用。虫えいの果実は薬用に利用。ネコ科の好む植物として有名。	
マルバチシャノキ	ムラサキ	チシャノキ		苗畑	6/10	海岸に近い山地の林縁などに生育し、高さ7～10m。花は6月頃、枝先に散房花序を出し小さな花を多数つける。花冠は5裂し、裂片はそりかえる。雄しべは5個、花柱は緑色。果実は直径2cmで、7～11月に黄色に熟し、生食できる。	
ミヤマガマズミ	レンプクソウ	ガマズミ		東山作業路他	4/28	花は5～6月に直径6～10cmの散房花序をだし、白い小さな花をつける。ガマズミは葉先のとがりが鈍く、葉柄に短毛や星状毛が密生しているのに対し、本種は葉先が鋭くとがり、葉柄には長い絹毛がまばらに生えている。	
ムクロジ	ムクロジ	ムクロジ		センター池西岸	6/25	山地に生え、樹高15～20m。葉は偶数羽状複葉で、小葉は4～6対。花は雌雄同株で6月に黄緑色の小さな花を多数つける。果実は10～11月に熟し、中に黒い種子をつける。これを羽根つきの球に利用する。	
ヤブムラサキ	シソ	ムラサキシキブ		第2苗畑、東山作業路他	6/6	林縁や林内に生育し、高さ2～3m。株立ちになり、枝は斜上する。花は6～7月に集散花序を出し紅紫色の花をつける。果実は直径3～4mmの球形で紫色に熟す。ムラサキシキブに似るが、本種には枝や葉に毛があることが特徴。	
ヤマイバラ	バラ	バラ		西山作業路	5/28	5～6月、枝先に白い花が10～20個集まって咲く。花は直径4～5cmと大きい。葉は互生、長さ11～15cmの奇数羽状複葉。ノイバラの仲間では最も大きい。托葉は幅が狭く、ほぼ全面面が葉柄に合着する。	
ヤマボウシ	ミズキ	サンシュユ	ヤマグワ	レストハウス、見本園	5/13	山地の林内や草原に生育し、高さ5～15mになる。花は5～7月に開花する。花びらのように見えるのは総苞片で、総苞片の中心に淡黄緑色の小さな花が20～30個密集してつく。果実は、9～10月に赤く熟す。	